

かんたん! 特許情報分析

テーマ：
タイムマシンができた2008年
ドラえものの道具と特許
立体映像表示装置

漫画「ドラえもん」のストーリー上では、2008年にタイムマシンが発明されたという設定になっています。

残念ながら現在の技術水準で実現することは困難とされますが、量子力学における多世界解釈という可能性は一つの研究テーマとなっているようです。技術開発の第一歩は夢を持つことから始まり、その実現のために実験・実証を経て完成されるものですので、今後の研究成果が注目されることです。

ドラえもんの4次元ポケットから出てくる「秘密道具」は、どれも夢のあるものですが、技術の進化に伴い現実の世界で実現されつつあるテーマもあります。

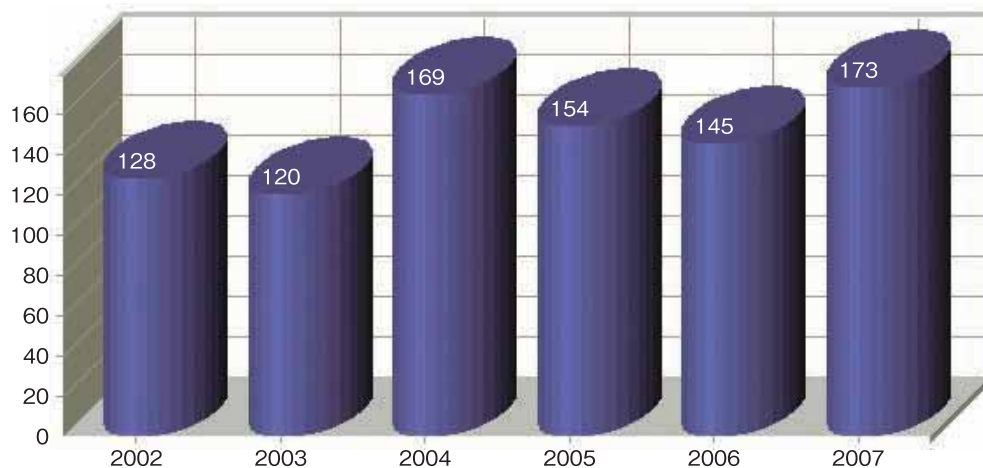
そのうちの一つに、立体映写機によって、さまざまな立体映像を映し出し、室内にいながらにして旅行気分を楽しむことや、どこでも映画を見ることができる「室内旅行機」(立体映写機)、「勝手にシネマ」などの道具のようなものがあるかと思います。

そこで、今回は最近の立体映像・表示装置関連技術の開発動向の概要をご紹介します。

Point

- 時系列公開件数の推移をみると、2004年の1度目のピーク後、2007年は対前年比約20%の伸びがあり、再び増加傾向に転じている。
- 技術別の特徴を挙げると、2004年に公開件数のピークを迎え3次元モデリング、光の強度・色・位相・偏光・方向の制御装置、可視的表示器共通の制御装置・回路がその後、減少あるいは横ばいで推移している一方、画像再生装置、光学装置(立体視又は3次元効果を生じるもの)、立体写真関連技術等は2006年以降増加を続け、2007年に最多件数を記録している。
- 2002年公開分での上位10社のシェアは6割近いが、2007年公開分では47%に減少しており、多数の出願人が参入し、活発な研究開発が行われていることがうかがえる。

(1)時系列公開件数推移



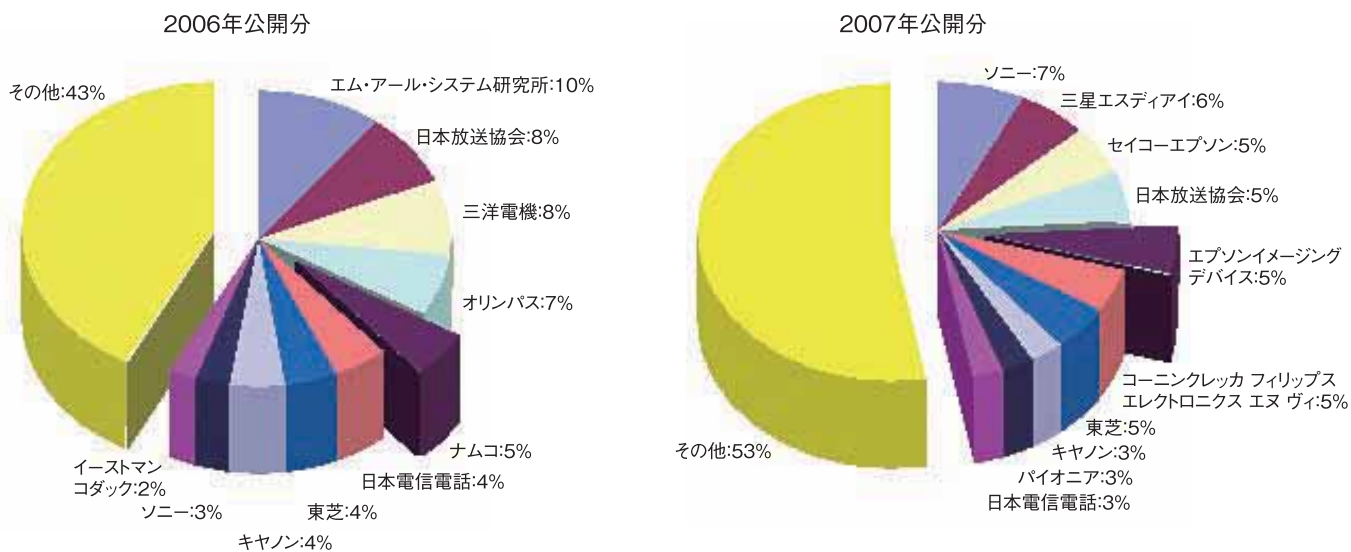
Point

- 立体映像表示装置に関しては、既に立体メガネを使わずに立体表示させるプロジェクタ型ディスプレイが販売され、同様に平置き型ディスプレイなども開発されている。さらには、持ち運びができる小型表示装置や空間に立体描画・表示する技術などが発表されており、ドラえもんの道具のようにゲーム、カーナビ、電子立体絵本、美術品展示等、幅広い用途に利用され、便利で楽しい生活を実現するものとして期待されている。

IPC分類の内容	公開年	IPC分類別公開件数						合計
		02	03	04	05	06	07	
画像再生装置		105	105	147	137	126	163	783
光学装置(立体視又は3次元効果を生ずるもの)		83	93	121	128	130	159	714
画像信号発生装置		40	24	29	20	21	20	154
光の強度、色、位相、偏光、方向の制御装置(液晶の応用)※		18	23	41	32	0	0	114
立体写真(同時観察によるもの)		23	15	11	13	14	29	105
3次元(3D)モデリング(立体視を用いるもの)※		18	20	40	25	0	0	103
立体写真(スクリーン等に開口式又は屈折式分解装置を用いるもの)		5	5	15	17	25	28	95
陰極線管以外の可視的表示器用の制御、装置・回路(液晶使用)		10	5	10	11	9	18	63
可視的表示器共通の制御装置・回路(立体表示に特徴のあるもの)※		16	10	21	15	0	0	62
陰極線管以外の可視的表示器用の制御、装置・回路(立体表示のためのもの)※		17	8	16	18	0	0	59
光の強度、色、位相、偏光、方向の制御装置(液晶に基づいたもの)		0	0	0	0	22	31	53
3次元(3D)モデリング(3次元イメージの操作)		0	0	3	0	20	21	44
立体テレビジョン方式		23	5	7	3	3	1	42
陰極線管以外の可視的表示器用の制御、装置・回路(多数文字の集合)		0	0	2	0	16	23	41
可視的表示器共通の制御装置・回路(ビット・マップ・メモリ使用)		1	2	8	4	7	16	38

※IPC分類の改正(第7版→第8版)時に改廃されたもの。

(2)出願人別占有率の推移



本稿掲載のпатентマップは、「発明協会 特許マップソフト」で作成しました。

膨大かつ難解な特許情報を効率的に整理し、可視化した「特許マップ(патентマップ)」を活用することは、今や企業戦略には欠かせないプロセスとなっています。「発明協会 特許マップソフト」は、現状把握からその課題を繰り返し検証し、対処方法を立案することができるため、“最適な将来ビジョン”の設計に有効なツールとして、多くのユーザーから高い評価を得ています。

簡易な操作性により、短時間で多様な観点から特許マップが作成可能な本ソフトの詳細については、発明協会ホームページ(<http://www.jiii.or.jp>)を参照されるか、下記へお問い合わせください。

また、本稿に関するご意見・ご感想などもお待ちしております。